JAPAN HONG KONG

飛 FLYING DRAGON 龍

日本香港協会ニュース ……No.64

空へと伸びようとするＤＮＡ

超高層ビルが林立する摩天楼の地。2000年3月20日に私は降り立った。それから10年。実に多くの出来事を体験してきたものだ。2000年は香港返還の3年後で、まだ英国植民地の残り香があった。街中は広東語以外には英語のみが通用する世界だった。北京からやってきた私は、全くといっていいほど北京語が通じない中華社会に違和感を覚えた記憶が残っている。しかし現在、圧倒的な北京語のパワーなしには、香港社会の成長は考えられないほどの存在感となっている。まさにこの10年は、宗主国が英国から中国へ変わったという事実が形式上ではなく、事実として香港社会に根付いたということだろう。

前置きが長くなってしまったが、表題に「空へと伸びようとするＤＮＡ」というものをもってきた。戦後、香港の高度経済成長とともに、建物の高層化が始まっていった。香港島には、世界を代表するメガタワーが次から次へと建ち、「コンクリートジャングル」と揶揄されるほど世界有数の高層ビル密集地となった。2000年の時点でも、セントラルプラザビル、中国銀行ビルそしてザ・センターなどといったユニークで斬新なデザインのビル群がビクトリア港に沿った香港島の空間を埋め尽くしていた。そして10年の年月が流れ、建物の高層化は、対岸の九龍半島が主役となる。すでに開発の余地がなかった香港島に比べ、政府による埋め立て事業の成果により、広大な土地が提供された。それに加え、旧啓徳空港の閉鎖に伴い、九龍半島の建物の高度制限が撤廃されたのだった。

啓徳空港が運用されている間、通常、飛行機はストーンカッターズ島の上空から進入を開始し、九龍半島上空を這うように空港にランディングしていった。そのため、九龍半島には建物に対する厳格な高度制限があり、香港島に比べて低層のビル群が立ち並んでいた。それが空港閉鎖に伴う規制撤廃後、雨後の筍のように、次から次へと高層マンションの建設ラッシュがはじまった。もともと尖沙咀から旺角までの地区は、繁華街であり、香港市民のみならず、世界中の観光客が押し寄せてきている超一等地。九龍半島は、啓徳空港という足枷がなくなることによって、ビルの高層化という果実を手に入れることができた。今まさに、香港で最も高いビルとなるICCビルが九龍半島西側に完成するほか、超高層ビル・マンションが競うように空に向かって伸びていっている。

それにしても、この香港独特の空へ伸びていこうとするDNAは、いったいどこからやってきたのだろうか。もともと、人間には高いところに登りたいという生理的欲求があると聞く。しかし香港は、人の意志ではなく、街自体が自らの意志によって、空を目指しているのではないかと錯覚してしまうほど勢いが盛んだ。わずか10年。されど10年。香港は、いつの時代も変化しつづける街だ。決して止まることがない。次の10年後、香港がどんな街に変貌しているか、考えるだけでも楽しみだ。きっと期待を裏切らないワクワク感いっぱいの街になっていることだろう。　　（香港日本人学校　森山 正明）

目　次

2010年４月 発行

空へと伸びようとするDNA …… 1
対談：香港交通の想い出と変化 …… 2～3
日本は一層の国際化を！ …… 4
大阪アジアン映画祭 …… 5
香港貿易発展局からのお知らせ …… 6
全国連合会・各地協会便り
　連合会：全国連合会からのお知らせ …… 7
　東　京：2010年春節セミナー『東アジア共同体構想の未来図』ー日中港のコラボレーション …… 8
　関　西：2010年春節セミナー開催 …… 9
　中　京：新年を迎えるにあたって（年頭所感） …… 10
　九　州：孫文ゆかりの地をたずねて（長崎編） …… 11
　山　形：成田発3泊4日26,000円の香港ツアー記録―会員4名による珍道中― …… 12
　北海道：「香港ビジネスセミナー」を開催 …… 13
　　「香港のつどい2010」を開催
　宮　城：「香港食品輸出促進セミナー」 …… 14
　　「春節セミナー＆パーティー2010」その他
　沖　縄：「沖縄と香港を結ぶリゾートウェディング・ビジネスについて」 …… 15
キャセイ・パシフィック航空からのお知らせ …… 16

対談　香港交通の思い出と変化

ＮＰＯ法人日本香港協会会員　関　達夫
広報委員会副委員長　小柳　淳

小柳　今日は交通に関する香港のいまむかしを語ろうという趣旨ですが、関さんはいつ頃香港においでだったのですか。

関　1976年から78年にかけて住んでいました。香港日本人学校の中学2、3年生の頃です。自宅が渣甸山（Jardine's Lookout）にあったので、毎週金曜日には週刊少年ジャンプを買う友人と一緒にＣＭＢ（中華バス）に乗って銅鑼湾の松坂屋まで出かけていました。

小柳　私は1983年が初めての香港訪問です。70年代に、しかも香港に住んでいたとは羨ましいなあ。私はどこでも、公共交通機関を使って自分で動き回るのが好きなので、香港もそうやって街を楽しんでいます。

関　あっ、それは私も同じです。地理が好きな中学生で、地図を見るのも好きだったんです。学校で「迷子になってみるのもいい」なんて言う先生がいらして、知らないところを色々見てみようと、その言葉をそのまま真に受けて友人と一緒に街歩きを始めました。バスに乗って香港島南側の華富邨なんかも行ったなぁ。

街歩きが好きだった関達夫さん（右）と小柳淳さん（写真：永田牧子）

荒っぽいけど上手いバスの運転

小柳　何故バスなのですか。

関　だってあの頃の交通機関はバスしかなかったですから。地下鉄も開通してなかったですし。

小柳　確かに圧倒的にバスの時代ですね。

関　そうしたら、バスが好きになってしまって、ＣＭＢの全路線を踏破しようと挑戦を始めました。全ての始終点の写真を撮り続けて、ついにそれを達成してしまいました。11番のバスにももう毎日です。

小柳　すごいなぁ。でもどうしてそんなにバスが好きになってしまったのですか。

関　渣甸山から同じ11番に乗りますよね。そうすると、段々運転手さんのクセが判るようになるんです。運転速度の速い人がいるかと思えば、遅い人もいる。速い人は香港島の急坂でもビュンビュン飛ばして、左右に車体を振って他の車を抜いていくんです。ところが、遅い人はなんと後ろから来た同じバスに抜かれちゃう。

小柳　今でもその伝統は生きていますね。香港のバスは急加速・急減速がお家芸みたいだし。バス停には左寄せしてキュッと停める。しかも前のバスとギリギリまで間隔を詰めてピタリと。「上手いなぁ」と唸ってしまうほどです。荒っぽいけど、上手い。

関　そうですね。あのころは荒っぽさがすごくて、バス停に邪魔な車が停まっていると面倒なのか通過してしまうんです。これには驚きました。これには広東というか、香港の気質・文化というようなものが背景にあるように感じていました。お客も運転手も人間としては対等というか。だから日本から香港に着くと、サービスに対する感覚がかなり違う感じがしますね。お客だからといって神様じゃない（笑）。

バスサービスは飛躍的に向上

小柳　確かに神様じゃない。長い植民地の歴史の中で、自分のことは自分で守る、みたいな気風ができたのかもしれませんね。ところで、98年にＣＭＢは路線バスから撤退し、新世界第一バスに変わりました。だからもう水色とクリーム色のＣＭＢは見られないんです。

関　私がいたころは赤とクリーム色が大勢でしたよ。徐々に水色が出て来ましたが、私にとっては赤が思い出のＣＭＢですね。

小柳　90年代はバスのサービスが急激に変化、というか向上した時期なんです。新規参入したシティバスは運転手さんが制服着ていたし、冷房車が多かった。

関　私がいたころも一応制服はあったようですが、着ている人はほとんどいませんでした。ランニングシャツで運転していた人も目に付きました。

小柳　90年代に入ると路線バスも冷房付が増えて、古くて暑い非冷房バスは「熱狗（Hot Dog）」とあだ名されていたくらいです。

関　ところで、バスで出かける前にはよくマックに入ってバーガーを食べました。何故だか分かりますか。小銭を作るためなんです。香港のバスはお釣りを出さないですからね。

小柳　そのための工夫ですね。以前は乗客同士で小銭の調整をしていたくらいですから。いまではＩＣ乗車券のオクトパスが普及しているので、小銭の心配は不要になりました。もはやコインで運賃を払う人は100人に1人くらいでしょうか。オクトパスの普及は目を見張りますね。既に香港人口の2倍くらいの枚数が発行されているようです。

関　バス代といえば78年に11番路線は50セント、1香港ドルが60円くらいでしたから、30円というところです。現在の11番は6.1ドル、約80円。バス代が安いのは変わらないなあ。

小柳　逆にすごく変わったのはバス停ですね。何しろバス停に名前がついたし、路線図や時刻・運賃も表示されるようになった。

関　そうですね、当時はすべてのバス停が「巴士

站（Bus Stop）」でしかありませんでした。ですから、私は始終点のターミナルの名前を覚えました。その表記の漢字と英文で地名の読み方を知ったりもしたんですよ。ただ、サービスという概念すらなかったような時代に香港に暮らしていた私としては、「香港的なところ」が失われて複雑な気持ちもあります。

毎日のように乗った11番バス（中環で。写真：関達夫）

中国との往来は激変

小柳　香港側にお住まいだったわけですが、遠出をしたこともありますか。

関　中学生でしたからバスでの探検は香港島がほとんどでした。九龍へはたまにかなあ。新界の粉嶺ゴルフコースに行く父についていったこともありました。それはもう当時としてはかなりの遠出です。遠出といえば、広東省の広州に一度だけ行きました。

小柳　広州ですか！一般の人が70年代に中国に入ることができたのですか。

関　初の香港日本人学校中国訪問修学旅行が実施され、私はそれに参加したのです。当時は香港と中国の往来は非常に制限されていました。中国側に行くというのは、今の気分で言えば北朝鮮に行くくらいの未知の世界に入ってゆく感じです。この旅行は日本と香港の新聞でも報道されました。

小柳　鄧小平が復帰したばかりで、文革から改革開放政策に転換する時期ですね。

関　まず紅磡の九龍駅から九広鉄路（ＫＣＲ）の列車に乗って中港境界手前の羅湖駅に行き、そこで列車を降りて深圳駅で中国側の列車に乗るまで、羅湖で下車してから2時間半以上経っていました。前の列車に比べてかなり上等な客車で、冷房も付いていました。この列車には1時間55分乗りましたので、九龍～広州間は実乗車時間だけで3時間17分にもなりました。

小柳　直通列車が走るのは翌1979年からですね。今なら特急のＫｔｔは1時間50分で着いちゃいますね。ところで車窓はどのような風景でしたか。

関　茶色の土地が広がっていて、あとは畑や林ぐらいしか記憶にありません。駅や広州市内のあちこちに革命のスローガンが書かれた赤い看板があったのが印象的です。

小柳　いまや香港の新界から深圳に入ると、もう一回香港市街地に戻ったような高層ビルの林立ですから、中国の変化と発展の急激さが実感できますね。柵の向こうの未知の大陸だったところが、今では中港境界を毎日53万人が往来するまでに変化したのですね。

「世界人民大団結万歳」1977年深圳で（写真：関達夫）

海上交通の役割は低下

小柳　ところでバス少年だった関さんはフェリーには想い出はありませんか。

関　テリトリーが香港島だったので、あまり乗りませんでした。スターフェリーくらいかな。

小柳　当時ですとＨＹＦ（香港油麻地小輪）というフェリーがビクトリア港を縦横に航行していましたよ。黒と白に塗られたちょっと地味な船体です。船内でカップラーメンを買って食べたりもできた地元っぽい船体です。

関　ああ、それなら九龍側の佐敦道からセントラルまで乗ったことがあります。車も載せるフェリーで、乗客は上層のデッキに乗って。夕景がとてもきれいな、のんびりしたいい路線でした。

小柳　それそれ。今では西九龍の埋立てが進んで、現在のＭＴＲ東涌線のあたりがこの航路だったはずです。

関　セントラルや北角、湾仔などフェリー埠頭に大きなバスターミナルが隣接していました。でも埋立でフェリー航路は随分減りましたね。

小柳　ハーバーの港内線航路は90年代に急激に縮小しました。現在ではバスは海底トンネルを通って香港と九龍を直接結んでいますし、銅鑼湾などから遠く新界まで行くバス路線もたくさんありますね。それから、鉄道が21世紀に入ってから急激に拡充しました。関さんがいらした頃がバスとフェリー、つまり陸と海の連携が香港交通の骨格でしたが、現在はバスと鉄道が香港交通の主役になった感があります。

関　随分変わりましたけど、バスは相変わらず陸の王者ですね。今では深圳まで行く路線バスすら走っているし。

小柳　珠江河口を越え、香港とマカオ・珠海を結ぶ港澳珠大橋の建設も決まり、広州～香港間の鉄道新線計画もありますので、交通も珠江三角州地帯の一体化が進むのではないでしょうか。やはり変化してゆくのが香港らしいですね。

ＨＹＦの車も運べるフェリー
佐敦道から間もなく中環に到着（写真：小柳淳）

日本は一層の国際化を！ー香港に学ぶことー

ハチソン ワンポア ジャパン株式会社　代表取締役＆CEO　遠藤　滋

日本人で村をつくるな

外国に行って日本を遠くから眺めると色々なことに気がつく。先ず、日本は住むのに、安全で、綺麗で、ともかく便利だ。気候も温暖で、しかも四季があり、美しい国土でもある。住み易くて、いい国過ぎるのかもしれない。

だから、皆日本に帰りたがる。会社で海外転勤になっても、普通は３－４年のローテーションで本社に帰る。自然日本の本社を向いて仕事をするようになる。私の妹も３０年以上も米国に住んでいたが、日本に帰って来た。医療費も高いし、養老施設も人間扱いしてくれないし、大体食事が美味しくない、というのが理由だという。日本人は日本への帰趨本能が強く、内向きで、国際性に乏しい。

英語力もアジアの中でも著しく劣る。私も米国に都合１３年間勤務し，３年間の香港駐在中も結構英語を使ったが、未だに歯痒い思いをしている。言いたいことが、適切な英語となって口から出て行かないのだ。大人になってから英語の世界に入っても、Nativeな英語にはならないらしい。国際化時代には、コミュニケーション力で負けてしまう。

「言いたきこと言わざるは、これ腹ふくるるわざ」という諺があったと思う。フラストレーションが溜まって、また日本人と日本語で酒を飲むということになる。この日本人の村に、外国の方はなかなか入りにくいらしい。日本人は自分で壁を作ってしまっている。これでは、国際社会で、益々孤立してしまう。企業のグローバル化で一番必要なことは、“日本人で村をつくるな”ということだと思う。現地社員のやる気をそいでしまう。

小さな政府と大きな民間の力

日本人としてもまた企業としても、国際化を考えるとき、学ぶべきは香港である。香港は変化を遂げつつも、一貫して国際都市である。華南地区のビジネスセンターであり、中国へのゲートウェイであり、アジアにある最大のグローバル拠点だ。

香港の強さは、地理的な位置もあるが、そこに住む国際的で勤勉で働き者の人たちだ。大陸からやって来た伝統的な中華文化を受け継いでいる人たちと、欧米で教育を受けた二代目三代目の人たちの混合文化だ。中国を根っこに、合理的な西欧文化をミックスした強みだ。広東語に加え、英語と中国語を話す。世界の情報が香港に集まる。グローバルな華僑のグループ企業が本拠を置く。文明のアジアシフトの流れの中で、香港の有利性は今後増大する。

上海も香港を追いあげているが、自由な環境、法制度、情報力、金融力、物流力の点で当分は安泰だ。政治に距離を置き、徹底してビジネスに集中して来たことがいい。自由で活発なビジネスを支えてきた香港の行政府の力も大きい。行政府は、高給を出し優秀な役人を雇い、時勢に応じた中長期の戦略を打ち出し、ビジネスをサポートしてきた。そして決して大きな政府にならなかった。徹底して民間の力を使ったからだ。

効率のよいインフラこそ生命

世界で最も進んだ香港空港とダウンタウンを結ぶ巨大インフラ事業を見てもそうだ。推進の母体は香港政庁だった。併し計画策定から建設に到るまで、徹底して民間に競わせ、ベストで、最もコストの安いものを入札で決めた。新空港の大プロジェクトが動き出したとき私は、香港三井物産に居た。空港へ向かう青馬大橋を英仏企業と組んで落札したが、入札の駆け引きひとつとっても行政府とは思えぬ巧みな動きだった。

公共部門の生産性の低さ、効率の悪さが、日本経済の最大の弱点だ。香港は、小さな政府であり続け、財政赤字に頼らず、民活を利用し、効率よく、立派で纏まったインフラを作った。空港、道路、港湾、通信などハードだけで無く、教育や制度などソフトを含めたインフラである。先ず香港に学ぶべきは、日本の中央政府、地方政府ではないかと思う。

企業の原点はオーナー経営である

企業も華人企業に学ぶ点は多い。第一は、オーナー経営についてだ。企業の原点はオーナー企業であり、立派な会社は、日本だって米国だって，創業者の志を引き継いでいる会社だ。それを忘れて、サラリーマン経営になってしまうと、途端にほころびがでてくる。

立派なグローバルブランドや会社には、次のような要素があるという。それは、①歴史とか物語があり、②研究と技術の蓄積があり、③質が高く、④創業者と経営者の人間性が見えていて、⑤伝統を大切にしながら革新を行うバイタリテイーがあり、且つ⑥世界的であるということだ。香港企業に製造業は少ないが、これらの要素の大部分を持っている。

華人企業は、オーナーも変わらず、担当者も余り変わらない。したがって、経営に一貫性と継続性がある。経験の蓄積もあり、得意先も含めて人間関係が維持される。経営とは経験であり、人間関係だ。

また自分の得意分野以外には、なかなか出て行かないし、経営権を握れないものをやらない点も学ぶべき点だ。また経営にスピードがある。

国際化に当たり香港に学ぶべき点は多い

グローバル化の流れは変わらないだろう。日本の大企業は、グローバル企業として通用するブランドと規模がないと、生き残れないかもしれないという危機感を持つべきだ。日本は国際化を行いつつ日本の良さと強さをどう残すかを総点検する時期に来ている。国際化には、語学力やコミュニケーション力の向上、異文化への理解、現地に溶け込んで一緒に仕事をしていくという気持ち、長期の人事政策などが必要だ。一つ一つ着手していけば、今からでも遅くない。

香港の人は、中国人やアメリカ人も多分にそうだが、実利第一だ。そして、起きてしまったことをくよくよしたり、先のことを考え悩んだりせず、今日を楽しく精一杯生きている。スピードもある。日本は、貧富の差も少なく、文化や技術も進んだ国なのに、まだ駄目だと、内向きに反省ばかりしている。反省はいいが、ほどほどにして、少しは香港の方がたの生き方をしてみてはどうか。日本も日本人も、香港に学ぶべき点は多い。

大阪アジアン映画祭2010

大阪アジアン映画祭2010 プログラミング・ディレクター 暉峻創三

大阪アジアン映画祭は、05年に開催された、＜韓国エンタテインメント映画祭＞を起源とし、翌年より対象を韓国以外のアジア圏にも広げたことに伴って現名称に改称された、歴史の浅い映画祭だ。その初期は配給会社提供作品や東京で上映済みの作品が大半を占めるプログラムだったが、09年からは基本性格を一新。ここ大阪がアジア映画の日本マーケット進出に向けてのゲートウェイとなるべく、大阪で日本初上映となる作品中心のプログラムとなっている。筆者がプログラミング・ディレクターを務めるようになったのも、この年から。観客層も、関西圏のみならず全国からアジア映画に高い関心を持つ人々が集結するようになり、また国内外の公的機関による助成・支援が拡大したこともあって、今では日本を代表するアジア映画の映画祭として一定の地位を築くに至っている。

”日本初上映作品であること”が大原則となる大阪アジアン映画祭だが、そのプログラミングにあたってそれ以上に重視しているのは、大阪がアジアに生まれた新しい才能、息吹をいち早く発見できる場になる、ということ。今回、香港からは２作品を上映したが、そのどちらもが作品の出来栄えはもとより、こうした観点からも極めて重要な作品であるとの認識に基づいて選ばれたものだ。

『冷たい雨に撃て、約束の銃弾を』
(c)2009 ARP - MEDIA ASIA　ALL RIGHTS RESERVED

上映作品は、ジョニー・トー監督の『冷たい雨に撃て約束の銃弾を』と、張經緯（チョン・キンワイ）監督の『ＫＪ音楽人生』。この２作は一見、何も似たところのない対極的な作品に見える。映画祭オープニング・フィルムとして上映された『冷たい雨に撃て、約束の銃弾を』は、王家衛（ウォン・カーウァイ）と共に世界に名を轟かす香港映画界の巨匠、ジョニー・トーがフランスから大スター、ジョニー・アリディを主演に迎えて撮った世界的話題作。片や『ＫＪ音楽人生』は、地元香港でさえ無名だった新人・張經緯がピアノの神童ＫＪ（家正のイニシャル）を題材に、その11歳から17歳に至る多感な時期をとらえた低予算ドキュメンタリーだ。

このうち後者は「アジアに生まれた新しい才能、息吹をいち早く発見できる場」としての大阪アジアン映画祭に相応しい作品であることは、一目瞭然。無名監督の長編デビュー作、ドキュメンタリー、題材はクラシック音楽という、香港での商業公開には何重ものハンデを背負った作品であるにもかかわらず、その感動的な出来栄えゆえ昨夏には異例の商業公開を実現。それにより噂が噂を呼び、その後他劇場でも今年初春にかけてまでリバイバル・ロードショーが続くほどの奇跡を起こした。そして2010年初頭に発表された香港電影評論学会大賞（香港を代表する映画評論家たちが昨年一年間の香港映画を振り返って、優秀作品・人を表彰する賞）では、なんとグランプリに輝く快挙をも成し遂げてしまった。昨年の香港映画と言えば、ジョン・ウーの『レッドクリフ　PartⅡ　未来への最終決戦』、アン・ホイの『夜と霧』、そして『冷たい雨に撃て、約束の銃弾を』を含め、例年になく著名監督の新作が揃った年。そんな中、それらを押し退けて『ＫＪ音楽人生』がグランプリに輝いた事実には、まったく新しい才能、これまで存在しなかったタイプの香港映画の出現に対する地元評論家たちの驚きと歓迎が反映しているように思われる。

『ＫＪ 音楽人生』
(c)CNEX Foundation Limited.

一方『冷たい雨に撃て、約束の銃弾を』は、香港が世界に誇るスター監督による大スター主演の国際的話題作であるという点では、なるほど『ＫＪ　音楽人生』と正反対の場所から生まれてきたには違いない。けれど両作は、近年の香港映画に支配的だったトレンドという観点から見ると、むしろ共通した新傾向を示しているところがある。

近年の香港映画のトレンドは、言うまでもなく”中国本土に針路を取れ”ということだ。経済界全般の中国との関係緊密化の流れは映画界にも波及し、多くの香港監督が中国との合作による中国マーケット重視の映画製作に香港映画生存の道を希求。その傍ら地元香港観客の嗜好は脇に置かれてきた。中国で大ヒットが見込める題材と言えば時代劇大作。その代表が『レッドクリフ』であり、ピーター・チャン監督の『ウォーロード　男たちの誓い』だったわけだが、そんななかジョニー・トーはこうした中国本土との関係緊密化のトレンドに一貫して乗らずにきた例外的存在。『冷たい雨に撃て、約束の銃弾を』はフランス資本を主に据えることで、新たな香港映画の作り方を示唆してみせた。そしてもちろん『ＫＪ音楽人生』が本土マーケットを目指したものではないのは、言うまでもない。

こうして、中国本土に針路を取ることが唯一の正解であるかのように信じられてきたなか、今年の大阪アジアン映画祭では敢えてそうではない路で成功した作品を並べることで、新しい香港映画の息吹、可能性を示そうと考えた。奇しくもこの３月末から４月頭にかけて開催された香港国際映画祭では、同様に中国志向ではない香港映画が大挙上映され、併せて「香港電影----合拍片以外的空間」（香港映画----合作映画以外の空間）と題されたシンポジウムも開催。これも中国との合作以外の香港映画の可能性より香港土着的な映画の可能性を探ったもの。香港映画界は今、中国本土との関係緊密化一辺倒の時代から、次の一歩を踏み出そうという歴史的な転換期にあるのかもしれない。

香港貿易発展局からのお知らせ

香港貿易発展局 2010/11
香港貿易発展局主催 展示会カレンダー

会場
H 香港コンベンション＆エキシビジョン・センター(Hong Kong Convention & Exhibition Center)
A アジア・ワールド・エキスポ(Asia World Expo)

2010年	日程	展示会名称	会場
4月	4/13 – 16	香港エレクトロニクス・フェア(春)	H
	4/13 – 16	インターナショナルICTエキスポ	H
	4/13 – 16	香港インターナショナル・ライティング・フェア(春)	H
	4/20 – 23	香港インターナショナル・ホームテキスタイル・フェア	H
	4/20 – 23	香港ハウスウェア・フェア	H
	4/20 – 23	ワールド・オブ・ペットサプライ	H
	4/27 – 30	香港ギフト＆プレミアム・フェア	H
	4/27 – 30	香港国際印刷・包装展	A
5月	5/14 – 15	アジア・フォーラム	シンガポール
7月	7/5 – 8	香港サマー・ギフト・家庭用品・玩具展	H
	7/5 – 8	香港ファッション・ウィーク春/夏	H
	7/21 – 27	香港ブック・フェア	H
8月	8/12 – 14	香港インターナショナル・ティー・フェア/香港国際茶展	H
	8/12 – 16	漢方博覧会 現代漢方＆ヘルスケア製品展・国際会議	H
	8/12 – 16	フード・エキスポ	H
9月	9/6 – 10	香港ウォッチ＆クロック・フェア	H
10月	10/13 – 16	香港エレクトロニクス・フェア(秋)	H
	10/13 – 16	エレクトロニックアジア	H
	10/27 – 30	香港インターナショナル・ライティング・フェア(秋)	H
	10/27 – 29	スポーツ用品フェア・アジア	A
	10/27 – 30	香港国際建築資材・装飾資材・機械設備展	A
11月	11/3 – 6	エコ・エキスポ・アジアー環境保護関連国際見本市	A
	11/3 – 5	香港オプティカル・フェア	H
	11/3 – 5	香港国際医療機器＆医薬用品フェア	H
	11/4 – 6	香港インターナショナル・ワイン＆スピリッツ・フェア/香港国際美酒展	H
12月	12/1 – 2	香港フォーラム	香港
	12/2 – 4	世界中小企業エキスポ	H
	12/2 – 4	イノベーション・デザイン＆テクノロジー・エキスポ	H
2011年	**日程**	**展示会名称**	**会場**
1月	1/10 – 12	香港国際ライセンシングショー	H
	1/10 – 13	香港玩具＆ゲームフェア	H
	1/10 – 13	香港国際文具フェア	H
	1/10 – 13	香港ベビー用品フェア	H
	1/17 – 20	香港ファッション・ウィーク秋/冬	H
	1/17 – 20	ワールド・ブティック香港	H
	中旬	アジア・ファイナンシャル・フォーラム	H
2月	2/17 – 20	教育＆職業エキスポ	H
3月	上旬	香港インターナショナル・ジュエリーショー	H
	下旬	エンターテインメント・エキスポ香港	H
	下旬	香港-アジア フィルムファイナンシング・フォーラム	H
	下旬	香港フィルマート	H
	下旬	香港ミュージック・フェア	H

日程は2010年3月1日現在の情報です
上記イベントは中止・日程変更になる場合がございます
最新情報は香港貿易発展局の日本語公式サイトよりご確認ください

香港貿易発展局 英・中文サイト:www.hktdc.com/ 日本語サイト:www.hktdc.com/japan

東京事務所: 〒102-0083 千代田区麹町3-4 トラスティ麹町ビル6階
TEL: 03-5210-5850 FAX: 03-5210-5860 e-mail: tokyo.office@hktdc.org

大阪事務所: 〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビル10階
TEL: 06-4705-7030 FAX: 06-4705-7015 e-mail: osaka.office@hktdc.org

第10回香港フォーラム・サイドトリップ 中国本土旅行に参加して(2009.12.3-5)

ＮＰＯ法人日本香港協会会員　小溝文雄

参加者集合写真

まず始めに、サイドトリップで中国本土に行った理由から。キッカケは私が中国人雇用主のクレーム処理に困っている時、CMMS(Chinese Management and Marketing School)を知り、平成21年9月東京で開講された第7期を受講しました。私が驚いたのは、受講生は中国と事業・実務経験者だったのです。本土渡航の未経験者は私だけ？ 中国を知る旅に参加しました。サイドトリップはフォーラム終了翌日、会議場前ロータリーに朝7時集合、２２カ国の参加者とスタッフを含め６０数名が２台のバスで、行きは汽車、帰りはフェリーの旅が始まりました。旅行記の抜粋です。

◎12月3日午後「廣州豊田汽車有限公司」設備は一世代前かと思いきや、シャーシー溶接・塗装等は全自動ロボット、案内書には確かに世界標準モデル工場とありました。企業として世界同一品質・性能を維持・達成するには従業員教育(平均年齢22歳)を含め、生産工程一式のシステムを導入し、人件費が安いからだけでなく、市場があるから海外進出する世界戦略は当然です。これからの巨大マーケットです。

◎12月4日「Shunde投資会社」主催の昼食会、唯一の日本人だと知り日本担当者が横に座り、話は盛り上がり、商社の投資は当然ですが、話し半分としても日本から多額の投資がされていました。日本国内は魅力ない？

◎12月4日午後「Neo-Neon Holdings Ltd」季節商品のクリスマス用等ＬＥＤはこの工場でなくベトナムの協力会社製造とのことで、”それは何故？”との質問に季節変動の従業員採用・雇用管理は煩雑との回答でした。経営は低賃金だけを考えればよいだけの時代は終わりました。

◎12月5日最終日「UNESCO Kaiping Diaolou and Villages」を観光。1821～1920年の海外出稼ぎ凱旋者、「故郷に錦を飾る」集落。成功は一日にしてならず。

中国は驚異的な発展をしています。しかし香港の空はスモッグでした。さあ日本の進む方向はいずこへ。

最後に通訳者・スタッフの仕事はGood Jobでした。次回もまた参加するぞと意気込んでいます。

ビレッジにて

全国連合会からのお知らせ

チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール(CMMS)実践編がスタート！

昨年9月に開講しましたＣＭＭＳも折り返し地点を迎えました。理論編では中国人民大学の黄泰岩教授をお招きし、「中国の中小企業の成長と日本企業の事業機会」をテーマにお話をいただきました。5ヶ月の理論編を終えて華人のベースを叩き込まれた受講者は、いよいよ実践編に突入、トップバッターは2月25日(木)に香港より武藤錬太郎弁護士にご登壇いただき、香港の法律制度について講義をいただきました。実践編講師の生の情報は受講生が培ってきた理論を触発し、開講前には分からなかった華人の経営スタイル像が見えてきたようです。

来期(第8期)の開講が決定いたしました。第8期は2010年6月の開講に向けて事務局内で内容を練りこんでおりますが、この度二松学舎大学様より強力なサポートをいただき、会場を同大学の九段キャンパス(東京都千代田区)に移し、充実した設備を活用して新たな境地を切り開いて参ります。内容や詳細については全国連合会までお問い合わせ下さい。

会員特典のホームページがオープンしました

日本香港協会会員向けの特典につきまして、新たに全国連合会ホームページ内に会員特典のページをオープンいたしました。(http://www.jhks.gr.jp/tokuten/)会員の皆様には最新の特典状況を分かりやすくご紹介させていただき大いに特典を活用していただける内容としております。また、特典提供いただいている皆様にも全国連合会のトップページに特典のバナーを設けますので、今まで以上に目に付きやすくなることで広告効果が高まります。もちろん、ホームページへの掲載料はいただかず、全ての特典ご提供者様の情報を掲示いたします。会員特典のご提供は常時受け付けておりますので、ご興味がございましたら全国連合会事務局までご連絡ください。

特典ページサンプル

TOKYO

NPO法人日本香港協会

ＮＰＯ法人　日本香港協会　事務局

2010年春節セミナー『東アジア共同体構想の未来図』－日中港のコラボレーション

満員御礼の会場風景

講演をされる黄教授

遠藤代表取締役＆ＣＥＯ

去る２月9日（火）、ホテルニューオータニ「芙蓉の間」において香港貿易発展局との共同主催（協賛：香港・日本経済委員会／後援：日本貿易振興機構、日中投資促進機構、日中経済協会、日本商工会議所）で2010年春節セミナー「『東アジア共同体構想の未来図』－日中港のコラボレーション」を開催いたしました。当日は会員・非会員合わせて満員御礼の300名を超える方々のご出席をいただきました。

本セミナーでは、2007年12月にも登壇をいただいた中国人民大学教授で中国民営企業研究センター所長の黄泰岩氏と、ハチソン・ワンポア・ジャパン代表取締役＆ＣＥＯ（元三井物産専務取締役）の遠藤滋氏にご講演をいただきました。

黄教授からは「東アジア地域における経済協力と香港の果たす役割」をテーマに、今回の世界経済不況の原因と分析について解説いただいた上で、これからの東アジア経済圏の行く末と日中経済関係、さらには香港の立ち位置と優位性について明確なご意見を頂戴いたしました。遠藤氏からは「日中共栄－華人経営に学ぶ」と題し、三井物産時代の香港・中国駐在経験と香港巨大財閥ハチソングループの経営特色などをベースに、今後の日中港の関係についてご講演をいただきました。また、講演後の質疑応答の場では、両講師に対して多くの質問が寄せられるなど、熱い応答が交わされました。

受講者のアンケート結果によると、8割以上の方が既に中国・香港へビジネスを展開している／検討をしていると回答している中で、多くの方が法制度や商習慣の違い、ビジネス情報の不足といったことを中国ビジネスの不安要素に挙げており、今回の講演会はこれらの問題を取り除くための有効なヒントを提供できたものと考えます。

セミナー終了後には、2010年春節パーティを開催（共同主催：香港貿易発展局、共催：香港経済貿易代表部、香港政府観光局）、100名以上のご参加をいただき、盛大な会となりました。当協会の財前理事長（当時）の挨拶にて開宴、三井住友銀行常務執行役員で日本経済団体連合会日本香港経済合同委員会委員の檜山英男様より乾杯のご発声をいただきました。

パーティでは心弦二胡講師を務めるかたわら各地で精力的に演奏活動を行なわれている横関剛氏による二胡の演奏が行なわれ、“良宵”はじめ3曲＋メドレーに、出席された方々はその染み入る音色に心を打たれました。

経済貿易代表部ジェニー・チョック氏の挨拶

演奏をされる横関氏

日本香港協会（東京）のクリスマスパーティが開催されました

2009年のクリスマスパーティは12月25日（金）、東京・芝浦にある、レストラン「ピアシス」で開催され、80名を超える会員や友人の方々で賑やかなパーティとなりました。

「鶯と燕」と香港政府経済代表部のアルバート・タン代表から特賞の航空券を贈られる井関ふみ子さん

アトラクションは中国の伝統的な撥弦民族楽器、古箏（こそう）と呼ばれる中国琴の演奏。演奏したのは中国の双子の姉妹「鶯と燕」（インとイェン）。2006年にデビューアルバム「鶯と燕」を日本クラウンからリリース、現在はライブやテレビ等で幅広く活躍しています。その可憐な容姿もさることながら、その演奏はハープに似た華麗な響きで、どこか懐かしく、心が癒されるやさしい音色でした。

恒例のラッキードローの特賞、キャセイパシフィック航空のビジネスクラスで行く香港往復航空券（ペアー）は会員の井関ふみ子さんが射止められました。

NPO法人日本香港協会（東京）新理事長に原田光夫氏が就任

2010年3月15日に開催された総会後の理事会において、8年間に亘り協会の発展に多大なご尽力をされた財前宏理事長が退任の上会長に就任、新たに原田光夫氏が理事長に選任されました。

ご本人の横顔・挨拶などは次号にて紹介予定です。

関西日本香港協会　事務局

2010年春節セミナー開催

関西日本香港協会では、総会と旧正月パーティーを開催した2月22日(月)にヒルトン大阪において香港貿易発展局と共催で春節セミナーを実施しました。

講師をお願いした香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏が「益々飛躍する香港、その秘密と未来展望について」と題した講義の中で、2009年の香港経済、珠江デルタ地域経済の展望、東アジア共同体構想を詳しく解説され、中国への経済進出だけではなく日本人と中国人の心の交流の大切さを過去の歴史経験から学ぶこことの重要性を主張されました。

続いて、古田氏のご紹介で日比谷松本楼の常務取締役小坂文乃氏が「革命をプロデュースした日本人――梅屋庄吉」と題した特別講演をされ、小坂氏の曾祖父、梅屋庄吉氏が孫文の辛亥革命を陰で支援した史実を豊富な史料に基づき興味深く説明されました。171名の参加申し込みがあり、会場満席の有意義な講演会になりました。

2010年度総会／チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティー

開会挨拶をする木全会長

2月22日(月)ヒルトン大阪において2010年総会と恒例のチャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーを開催しました。総会では、新たに3名の理事就任が承認され、木全千裕会長以下20名の充実した役員体制で2010年度の協会運営を行うことになりました。

新年度の事業計画では、昨年同様法人会員の増強と個人会員の維持拡大に努めて財務基盤強化を図り、ネットワーク部を新設して香港や他組織と連携を深めてビジネスマッチングの法人支援を行い、香港とのビジネス交流の活発化を図ること、及び華人経済経営研究所が6年間実施した「チャイニーズ・マネージメント・アンド・マーケティング・スクール」(CMMS)で得られた貴重な財産を活用して華人経営精神と日本的経営精神の研究・普及に努める方針が承認され、より充実した活動をすることになりました。

チャイニーズ・ニュー・イヤー・パーティーは、昨年の95名を大幅に上廻る121名の参加者を得て盛会でした。不景気の中、元気な香港や中国に対する関心が益々高まっているのでしょう。

木全会長は、閉会の挨拶の中で昨年12月に香港で開催された香港フォーラムを重要なイベントとして詳しく紹介され、２４名参加した関西日本香港協会が年間事業を表彰する Grand Achievenent Award のグランプリと会員増強成果を表彰する Outstanding Membership Award のアジア・オセアニア地域1位を受賞したことを披露され、又、昨年の事業成果や本年度の事業計画を説明されて新規会員募集への協力を依頼されました。今年も近畿経済産業局や大阪商工会議所など官界や財界の代表者が多数参加されました。東京から参加していただいた香港特別行政府駐東京経済貿易代表部首席代表のジェニー・チョック氏が歓迎の挨拶をされ、アジアの時代が到来した中で発展している中国南部(香港と珠江デルタ地帯)と日本が経済面で協同していくことの重要性を強調し、日本香港協会が積極的に貢献することを期待していると述べられました。又、香港貿易発展局日本首席代表の古田茂美氏も歓迎の挨拶をされ、総会とパーティーに先立って開催された春節セミナーで特別講演をされた日比谷松本楼の常務取締役小坂文乃氏(孫文の辛亥革命を陰で支援した梅屋庄吉氏を曾祖父に持つ)を紹介し、かつての貴重な日中友好の歴史認識を新たにして日本の優れた経済力を香港経由中華圏やアジアに発信していきたいとの抱負を述べられました。

続いて、中華人民共和国駐大阪総領事館の劉雲清領事が春節を祝う挨拶の後乾杯の音頭をとられ、ヒルトンホテルの広東料理「王朝」の旧正月料理で会食を楽しみました。

今年のアトラクションは、関西を中心に数多くのイベントやテレビ出演で活躍し、2005年にディアボロ全国大会で準優勝したジャグラーＲｅｎさんの大道芸を楽しみました。又、今年も会員企業から沢山の景品が提供され、キャセイ航空提供の特別賞(香港往復ペア航空券とホテル宿泊券)で会場内が大いに盛り上り、最後に田中義次副会長の閉会の挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。

キャセイ航空券当選者の五味産業㈱　代表取締役　五味　啓暁様

CHUKYO

中京日本香港協会

新年を迎えるにあたって（年頭所感）

中京日本香港協会 副会長・事務局長　佐藤 亮一

茶藝を楽しむ高橋会長・豊島副会長と中国政府認定茶藝師の前田久美子氏

恭喜発財～中京日本香港協会の新年会は、高橋会長のご発声から始まった。平成22年度総会・春節セミナー・新春名刺交換の旧正月パーティーの幕開けである。まず総会は、前年度事業報告、収支計画、今年度事業計画、新旧理事就任の報告が部門理事よりあり、出席者全員の承認を得た。午後6時より恒例新春の旧正月パーティーがライオンダンスを皮切りに各界異業種会員との親睦会が100名を超える参加者のもと、香港貿易発展局の古田茂美日本首席代表には乾杯のご発声をお願いした。アトラクションでは中国政府認定茶藝師である前田久美子氏による茶藝を披露頂き参加者にお茶を振舞った。特賞であるキャセイパシフィック航空からの往復航空券をはじめとするラッキードロー抽選会等々華やかに開催された。盛会のなかばに中華人民共和国駐名古屋総領事館より張立国総領事ほか2名の領事をお迎えし、張総領事にはご挨拶を頂いた。本年20歳を迎える当協会として各理事の協力、香港貿易発展局、日本香港協会全国連合会からの応援なくして継続できなかったことに関し、感謝申し上げる次第である。

本年の特筆すべき年頭所感としては、「国際交流化」のテーマについて述べてみたい。本年は昨年末より香港政府観光局の提唱する日本・香港の交流年にあたり、中京地区として、アジア圏、貿易・経済のハブ港としての香港との親睦を強化すべく、当春節セミナー・パーティーにも名古屋主要大学の留学生の招待、友好化を昨年より始めており、本年も参加者より日本の文化に触れることも出来、また来年も参加との希望もありこの件に関し、輪を広げて行きたい。また、反響があった事がらとしてセミナー講演より提供された「日本における投資ファンドの実態と今後の展望について」(シティック・キャピタル・パートナーズ・ジャパン・リミテッド日本代表/マネージング・ディレクター　中野　宏信氏)の内容もしかり、データの豊富さも参加者より参考にしたいとの感謝の意があり、関係部門に報告としたい。また、春節セミナーの後援を頂いた名古屋商工会議所、日本貿易振興機構(ジェトロ)名古屋貿易情報センター、東海日中貿易センターには深く感謝申し上げる次第です。

次に、中京地区中心の行事を2点触れておきたい。1点は「メッセナゴヤ2010」(異業種交流展示会)が本年10月27日から30日まで名古屋港金城埠頭にて行われる。これは、「愛知万博」を機に、愛知県、名古屋市、名古屋商工会議所等主催による一大イベントであるが、第5回を迎える今年は5万人の入場者が見込まれるとのこと、折しも今年は名古屋開府400年目にあたる年でもあり「ＣＯＰ10」(第10回)も開催される「異業種交流の祭典」テーマは「環境・エネルギー」と直面している地球上の重要課題でもある。また、当協会として第6回ワールドコラボフェスタも秋口に開催される予定であり、出展して香港・中国の文化、観光、ビジネスチャンスの窓口として相談・ＰＲにも応援参加していきたい。かように、国際化が中京地区としても年々増加傾向にあり、香港政府団体、愛知県・名古屋市・各業界、商工団体とも連携を図り、各企画にも積極的に情報交換していく所存である。

最後に、中京日本香港協会から会員の皆様へのお願いとして、通信手段の効率化・通信費削減へのご協力として電子メールをお使いになる方には是非前回事務局より送付した用紙にメールアドレスをご記入のうえ、事務局までご返送頂きたい。また、香港ビジネスに従事されている企業、香港に関心を持たれている企業や個人の方がいらっしゃれば是非事務局までお知らせ下さい。入会資料・香港に関する観光資料・香港貿易発展局主催のイベント・セミナーあるいは香港で実施される展示会等の情報等を事務局よりお送りいたします。今後の法人会員・個人会員の増強に皆様ご協力頂きますようお願い申し上げます。

ライオンダンスと高橋会長

九州日本香港協会　事務局

春節セミナー・パーティーを開催

セミナーの様子

2/10(水)に九州日本香港協会となって初めてのイベントを開催し、約200名の方にご参加いただきました。セミナーでは、中国民営企業研究の第一人者として、中国人民大学で教鞭を執られる一方で、中国企業の社外取締役を歴任されるなど多方面でご活躍されている黄泰岩様より「東アジアの経済連携と香港の果たす役割」、また中国で近代革命の先人として国民に尊敬されている孫文の日本における支援者であった長崎出身の梅屋庄吉氏のひ孫にあたり、「革命をプロデュースした日本人」を上梓された小坂文乃様より「梅屋庄吉と孫文」という演題にてそれぞれ貴重なご講演をして頂きました。セミナー終了後には、春節パーティーを開催し、香港特別行政区政府東京経済貿易代表部首席代表　ジェニー・チョック様、福岡県副知事　海老井悦子様、福岡市長 吉田宏様、民主党参議院議員 大久保勉様、日本香港協会全国連合会名誉事務局長・香港貿易発展局日本首席代表　古田茂美様、中華人民共和国駐福岡領事　王連鋒様よりご来賓挨拶を賜りました。ラッキードロー抽選会ではキャセイパシフィック航空会社様に香港往復航空券(ペア)をご提供頂き、大いに盛り上がりました。

ラッキードロー抽選会

孫文ゆかりの地をたずねて(長崎編)

前号に引き続き、今回も「中国革命の父」と呼ばれる「孫文」のゆかりの地を訪ねました。孫文は来日した際に９回も長崎を訪れています。

まずご紹介するのは「福建会館」です。ここは、孫文が1911年辛亥革命を成功させ、1912年に中華民国を建国、臨時大統領に就任し、その翌年に鉄道大臣にあたる全国鉄路督弁として来日した際に、華僑主催の孫文歓迎会が開催された場所です。会館には資料の展示や2001年に日中友好のシンボルとして上海市から贈られた孫文の銅像が建立されています。孫文歓迎会の際に撮った写真は長崎歴史文化博物館に保存され、申請すれば閲覧可能です。孫文の長崎での写真は非常に珍しく、また現物写真は貴重な物だそうです。

孫中山銅像

次にご紹介するのは、「孫文故縁の地」です。ここは、かつて東洋日の出新聞社があった場所で、現在は「孫文故縁の地」の記念碑が建立されています。社長の鈴木力氏は孫文の革命運動の支援者として知られており、辛亥革命が起こると現地に人を派遣し、16回にわたり紙面にその様子を掲載しました。石碑の横には、孫文が来日した際に鈴木氏の自宅前で撮った写真とその説明文を見ることが出来ます。

今回、私たちが長崎を訪れた際は、長崎ランタンフェスティバル開催中(今年は2月14日～2月28日)でした。このイベントは華僑の方々が中国の旧正月(春節)をお祝いするための行事として始めたもので、期間中はたくさんの鮮やかなランタンが飾られ、市内中心部は中国色豊かな街になります。なお、今回ご紹介した福建会館もランタンフェスティバルの会場の一つとなっております。(来年の春節は、ぜひ長崎ランタンフェスティバルへ！)

福建会館…1868年福建省泉州出身者により八門会所が創設。その後、1897年に建物を全面的に改築し、福建会館と改称。会館本館の建物は原爆により倒壊したため、正門と天后堂のみが現存し、長崎市の有形文化財に指定されている。
(長崎市館内町11番4号)
長崎市歴史文化博物館…日本有数の海外交流史に関する貴重な歴史資料や美術工芸品、古文書などが一堂に集まる博物館。長崎奉行所立山役所の一部を復元整備している。孫文の写真を閲覧する為には事前申請(約1週間前)が必要。
(長崎市立山1-1-1　TEL095-818-8366)
長崎ランタンフェスティバル…長崎在住の華僑の人々が春節を祝うための行事として始めたもので、もともと「春節祭」として長崎新地中華街で行われていたが、平成6年から「長崎ランタンフェスティバル」として規模を拡大し、長崎の冬を彩る一大風物詩となる。期間中は、長崎新地中華街のほか、市内中心部が約１万５千個にも及ぶ極彩色のランタンなどで彩られ、中国色豊なイベントなどを行っている。

長崎新地中華街

福建会館

YAMAGATA

山形日本香港協会

成田発3泊4日26,000円の香港ツアー記録—会員4名による珍道中—

山形日本香港協会　副会長　渡辺 晃

香港貿易発展局から一通のメールが、「10/26～10/31まで建築関係の建材の展示会が香港で開催」。娘の顔でも見てくるついでに、行ってみる事にしました。飛行機は、ホテルはと探していると、HISで26,000円のツアーが。しかもホテル代、燃料サーチャージ等々すべて込みこみで、飲茶と観光もついているとのこと。出発は18時、帰りは8時半の飛行機で、ホテルは荃湾のパンダホテル。尖沙咀まではMTRで30分と遠いのですが、この安さなので「まっ、いいか」です。連休にも重なる事から2泊延泊で申し込みました。一泊8,000×2日＝16,000円の価格アップ。

問題は成田までの足です。通常、新幹線+成田エクスプレスまでの交通費25,000円が加算されるのですが、不況の真っただ中、一円の出費も抑えなくてはならず車で行く事にしました。山形から東北自動車道、常磐道を通って成田まで。高速料金は行き5,500円、帰りは祝日割引で1,000円の計6,000円。ガソリン代は往復800キで10,000円。合計は16,000円ですが、4人で行きますので一人4,000円。かくして5泊6日、46,000円の香港旅行が企画されたのです。

10/29
11時　山形発、成田17時着
16時半　出発
22時半　香港到着
24時　ホテル近くの食堂で夕食

10/30
飲茶ツアーはキャンセル
午前　空港側の見本市会場で建材展示会参加
午後　ゴンピン360で仏教文化のテーマパークへ、大仏までは270段の階段を登らないといけないので、見物は断念。床がスケルトンのケーブルカーは迫力満点でした。満記甜品でマンゴーパンケーキのおやつも。
夕食　ランドマーク・マンダリン・オリエンタルの会員制中国倶楽部で食事、その後ランカイフォンにてハロウィン見学

10/31
午前　西貢へ、市場で珍しい食材を調達、全記海鮮菜館（巨大シャコにはびっくり）で昼食
午後　満記甜品本店で香港スイーツを堪能＆メニュー研究会
女人街・金魚街で買い物
義順牛乳店のミルクプリンでおやつ
スターフェリー乗船
インターコンチネンタルのバーからレーザーショー見学
ショコタンお奨めの四川料理レッドペッパーにて夕食

11/1
午前　荃湾の地元スーパーで買い物（お土産＆商売のネタ仕入れ、珍しい香港味の出前一丁を大量購入）
上環の蓮香楼で飲茶、地元香港人の食べっぷり・マナーに初心者はビックリ
午後　上海灘にて買い物
老上海にて上海蟹の夕食

11/2
午前　シンセンへ
お茶市場にて買い物
ニセモノ市場見学
午後　潮州料理（大満足の食事で一人500円）で昼食
蛇口の再開発されたテーマパークSCで休憩、エッグタルトも食べました
18時半　フェリーで香港島へ、海から臨む100万ドルの夜景は一同感動
糖朝本店で夕食（豆腐花ほか日本にはないメニューを堪能）
隣席で梅宮アンナちゃんが食事してました。

11/3
5時起床　8時の飛行機で日本へ
13時　成田到着
18時　山形着

激安香港ツアーのスライドショーを、総会で披露する長岡純子さん
これをきっかけに香港協会に入会いただきました。

後記

- 山形から成田までは時間にして5時間位、二人で交代すればさほど苦痛ではなく、新幹線を利用した場合の乗り換えや時間調整を考えれば、むしろ車の方が便利かもしれません。
- ツアーを利用すれば、空港からホテルまでの交通が無料ですごく便利。
- 問題の荃湾のパンダホテルは、尖沙咀まで車で1,300円、時間にして20分位と思ったほど不便ではない。ただしMTR利用の場合は30分、駅からホテルまで徒歩10分と大変。いったんホテルを出たら戻るまで休む所がないという不便あり。ホテル内は、部屋は広くバス・トイレの設備は日本の高級ホテル並み、日本語のできるスタッフはいないがコミュニケーションは英語でOK。お気に入りはスポーツジムです。最新のマシーンを取り揃えた広い空間、乾湿とスチームの二つのサウナ、屋外の広いプールあり。気温が連日27度ぐらいあったことから毎日泳げました。利用時間は早朝6時からなので、出かける前に一時間以上のトレーニング＆リラクゼーションが楽しめます。ホテル内及び隣接地に中国系、欧米系レストランとコンビニ・スーパーマーケットがあり利便性は抜群です。
- 香港のタクシーは、お客は5人まで乗れます（4人用のもありますが、車の前に書いてある数字でわかります。ただし行き先ごとにタクシーは区域分けされますのでご注意を。）
- ランタオ島のゴンピンのケーブルカーは床がスケルトンとそうでないのがあります。スケルトンの方が少々高いのですが、スリルという観点からこちらが絶対にお奨めです。

北海道日本香港協会 事務局

「香港ビジネスセミナー」を開催

国内での市場拡大が困難になりつつあるなか、海外、とりわけアジアへの販路拡大に取り組む企業が増加してきていることを受け、香港ビジネス関係者や、関心のある企業の皆様にご参加頂き、2月5日(金)札幌グランドホテルで、北海道日本香港協会、香港貿易発展局、北洋銀行主催、北海道、札幌市、北海道国際ビジネスセンター、ジェトロ北海道後援による「香港ビジネスセミナー」を開催致しました。

講演では、日本香港協会全国連合会　戝前会長より「アジアとどのように向き合うか」と題して、アジア全体の経済状況とその中での香港市場の魅力をご説明頂きました。次いで香港貿易発展局　ベンジャミン・ヤウ大阪事務所長からは、「香港が導く、これからの中国ビジネス」と題して、アジアにおける香港市場の優位性、中国へのゲートウェー機能などをご説明頂きました。

講演終了後は質疑応答だけでなく、講師と参加者で名刺交換、意見交換が活発に行なわれるなど、参加者の皆様にとって有意義なセミナーとなりました。

ご講演頂いた戝前会長と、香港貿易発展局ベンジャミン・ヤウ大阪事務所長

「香港のつどい2010」を開催

今回で５回目となる香港のつどいは、2月5日(金)に、北海道日本香港協会および香港貿易発展局主催、香港政府観光局、北海道、札幌市、北洋銀行にご後援頂き、札幌グランドホテルにて開催されました。

冒頭に主催者を代表して当協会の吉野会長が挨拶。その後、中華人民共和国駐札幌総領事館胡勝才総領事にご挨拶を頂き、香港特別行政区政府駐東京経済貿易代表部アルバート・タン代表の乾杯により会が始まりました。

ご挨拶されるキャセイパシフィック航空会社サイモン・ラージ日本支社長

当日の会場内では、昨年に続き(株)ホリ様、石屋製菓(株)様に北海道スイーツをご提供いただきました。北海道で大人気の両社のお菓子はたいへん好評でした。

さらに、日本清酒(株)様から日本酒、北海道ワイン(株)から紅白のワインをご提供いただきました。

後半には、男性ボーカルカルテット「ダンディー・フォー」による素敵なハーモニーの披露に続いて、期待のラッキードロー大抽選会では、特賞の「札幌ー香港往復ペアチケットとザ・ミラホテル香港ペア宿泊券のセット」を、航空券はキャセイパシフィック航空会社様、宿泊券は香港政府観光局様にご提供頂きました。さらに、日本航空(株)様、全日本空輸(株)様、(株)ホリ様、石屋製菓(株)様、日本清酒(株)様、北海道ワイン(株)様、香港貿易発展局様、北洋銀行様から、多数の賞品をご提供いただきました。特賞は、羨望の眼差しの中キャセイパシフィック航空サイモン・ラージ日本支社長、香港政府観光局　加納國雄　日本・韓国地区局長より当選者に授与されました。

香港のつどいは例年、札幌の冬の一大イベントであるさっぽろ雪まつりに合わせて、香港との文化交流や相互の観光促進を目的として開催しています。

今年も多くの企業や団体の方々に支えられ、120名を超える皆様にご参加頂き盛況のうちにこの会を終えることができました。来年もさらに多くの皆さんに参加していただけるよう事務局でも取り組んでいきたいと思います。

素敵なハーモニーを披露していただいた「ダンディー・フォー」のみなさん

MIYAGI

宮城日本香港協会

宮城日本香港協会 事務局　武田　功

「香港食品輸出促進セミナー」、「春節セミナー＆パーティー２０１０」を開催しました

本年2月25日(木)は、宮城県における香港デー、14時から「香港食品輸出促進セミナー」をパレス平安に於いて、17時半から「春節セミナー＆パーティー2010」を聘珍樓において開催、天気にも恵まれ、それぞれ90名、50名もの参加者を得て、盛大に開催することができました。

「香港食品輸出促進セミナー」においては、主催者としてジェトロ仙台貿易情報センター所長の中川明子氏が挨拶、その後、香港貿易発展局東京事務所の伊東次長が登壇、香港の食品マーケット事情について、税制や地理的条件、人口の流動性など、香港市場の優位性等をＰＲされました。また、ジェトロ香港の彦坂久美子氏は本年７月から導入される香港栄養表示制度について講演、最後に(有)伊豆沼農産代表取締役・伊藤秀雄氏から宮城県の取組について説明があり、輸出促進団体として「宮城県食品輸出促進協議会」の設立について発表、セミナー終了後、設立総会が行われました。

香港食品輸出促進セミナーの会場風景

その後、会場を広東料理の老舗「聘珍樓」に移しての「春節セミナー＆パーティー2010」の開催、香港貿易発展局東京事務所の伊東次長による講演で幕を開け、佐々木会長の挨拶、小野寺代表理事による乾杯でパーティーとなり、寄せられた村井知事からのメッセージが花を添えてくれました。会場は旧正月一色の香港飾りが施され、マジックショーのアトラクションもあって、参加者も香港に行った気分を満喫していました。

香港貿易発展局東京事務所伊東次長によるセミナー風景

食産業ビジネス部会主催の「香港経済セミナー」を開催しました

昨年11月11日(水)ホテル仙台プラザにおいて、「香港経済セミナー」を開催、30名の方々が熱心に耳を傾けておりました。

講師は香港貿易発展局東京事務所長のサミュエル・チェン氏、「中国進出への機会創造と足掛かりとして」と題して、約１時間にわたって講演、ＧＤＰ成長率の高さを維持している中国経済への足掛かりとしての香港、「経済競争力ランキング2009」において世界第1位を獲得した香港、香港は日本食品の世界最大仕向地ともなっているとのお話に、参加した人も「なるほど」と頷いておりました。

セミナー修了後講師と懇談会出席者との記念撮影

女性部会主催の「クリスマス・パーティー2009」、「第2回料理教室」を開催しました

昨年12月17日(木)夜、ホテルメトロポリタン仙台に於いて、「クリスマス・パーティー2009」を、香港貿易発展局サミュエル・チェン東京事務所長をお招きし、総勢57名の参加者を得て開催しました。佐々木会長の挨拶のあと、来賓として壇上に立ったサミュエル氏は日本語で挨拶、作並温泉「湯の原ホテル」の女将・菅原賀寿美さんの音頭で乾杯、そして月輪まり子さんのアイリッシュ・ハープの演奏と続きました。 曲目はアイルランド伝統曲であるSuantrai na Maighdine 「マリア様の子守歌」やSilent Night「きよしこの夜」など5曲、静かな曲の音色にうっとり、20分間という短い時間でしたが、一時のクリスマス気分を味わうことができました。香港の新年祝賀の歌「祝福你」の合唱や空くじなしのお楽しみ抽選会もあって、参加者の皆さんはプレゼントを手に、笑みを浮かべながら、まるでホワイトクリスマスのような雪の降る中を帰路につきました。

また、本年2月5日(金)開催の料理教室では、「ブロッコリーとトマトのペンネアンチョビ風味」「りんごとセロリのサラダ」、「タルト・オー・ポァール」の三品を勉強、バレンタインデーが近いということもありスィーツ中心のメニューとなりました。

アイリッシュハープの演奏にうっとりと聞き入る参加者

OKINAWA

沖縄日本香港協会

春節セミナー開催「沖縄と香港を結ぶリゾートウェディング・ビジネスについて」

沖縄日本香港協会　事務局

平成22年3月9日(火)午後４時より、沖縄かりゆしアーバンリゾート那覇にて、主催香港貿易発展局・沖縄日本香港協会、後援：那覇商工会議所、協賛：香港日本経済委員会による、春節セミナーが開催された。

冒頭、主催者を代表して、香港貿易発展局　古田茂美　日本首席代表が挨拶した。古田代表は「春節セミナーも、2月5日の北海道からはじまり、日本を縦断して最後の沖縄の開催となった。中国の国務院は珠江デルタ地区の発展計画を発表し、その中で香港、マカオ、広東省の3地域がこれまで以上に緊密に協力することにより2020年までに珠江デルタを「世界的な競争力を備えた、太平洋アジア地区で最も活力ある地域」に成長させると表明した。2020年に珠江デルタ地区は、ニューヨーク、東京、ロンドンをしのぐ規模になると予想される。是非、香港を皆様のビジネスの拠点としていただきたい。」と挨拶した。

その後、「沖縄と香港を結ぶリゾートウェディング・ビジネス」と題して、沖縄ワタベウェディング㈱代表取締役社長　翁長良晴氏の講演が行われた。翁長氏は、京都の貸衣装から創業してハワイやグアムなどへのリゾートウェディングへの進出の歴史の説明がありました。沖縄ワタベウェディングは沖縄県内に6箇所のチャペルを有し、現在非常に高い稼働率であるが、将来、日本のマーケットは少子高齢化に伴い、着実に減ってくると考え、中華圏のマーケットの拠点として香港に進出したと、香港に進出した経緯を説明した。「香港の人口は約700万人で、年間婚姻件数は約5万件に過ぎないが、一人当たりのＧＤＰ・年収も日本より高く、価値のあるものには、お金を惜しみなく払う。日本の高いクオリティのサービスを受けたいと思っている需要は確実にある。中国本土においてもこれから、婚礼マーケットは拡大するので中国のマーケットのニーズをしっかり捉えて、沖縄にも来て頂きたい。」と語った。

翁長氏は、「先の戦争で犠牲になった親族が多かった」とも語り、「ブライダルビジネスは、平和でなければ成り立たない産業。リゾートウェディングを通じて本土と沖縄だけではなく、海外との人の交流を盛んにし、平和な世界の構築にも貢献したい」と語った。

その後、会場を変えて懇親会が行われた。来賓として安里カツ子沖縄県副知事は「平成20年に香港と沖縄の定期便が就航し、香港からの観光客も増えています。これからも人やモノの交流が一層促進されることが予想され、沖縄日本香港協会の担う役割は、益々重要になるものと期待します。」と挨拶した。

沖縄ワタベウェディング（株）社長　翁長良晴氏

左から 古田代表　安里カツ子沖縄県副知事　翁長良晴氏

その後、懇談に入ったが、多くの参加者の皆様は、名刺交換をしながら、自身のビジネスや香港・中国のビジネス情報の交換を行い、有意義な懇親会となった。

春節懇親会　絶好のビジネスミーティングとなりました

飛龍　No.64　2010年4月 発行　（禁無断転載）

日本香港協会 全国連合会

〒102-0083　東京都千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局 東京事務所内
電話(03)5210-5901　FAX(03)5210-5860

ＮＰＯ法人日本香港協会(東京)
〒102-0083　千代田区麹町3-4　トラスティ麹町ビル6階
香港貿易発展局内　電話(03)5210-5870

関西日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話(06)4705-7030

中京日本香港協会
〒541-0052　大阪市中央区安土町2-3-13　大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内　電話(06)4705-7030

九州日本香港協会
〒812-8566　福岡市博多区博多駅前3-25-21
九州旅客鉄道(株)内　電話(092)474-0747

山形日本香港協会
〒990-2432　山形市荒楯町1-14-21
(株)日本不動産コンサルティング内　電話(023)633-2110

北海道日本香港協会
〒060-8661　札幌市中央区大通西3-11
北洋銀行国際部内　電話(011)261-4288

宮城日本香港協会
〒980-0811　仙台市青葉区一番町3-7-23　明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)ＪＴＢ東北 交流文化事業部内　電話(022)212-5552

沖縄日本香港協会
〒900-0033　那覇市久米2-2-10
那覇商工会議所内　電話(098)868-3758

ＵＲＬ　http://www.jhks.gr.jp

ビジネストラベラーの強い味方！

キャセイパシフィック航空のSBS（スモール・ビジネス・ソリューション）プログラム

香港・台北への出張の多いビジネストラベラーにお勧めしたいのが、キャセイパシフィック航空の法人向けプログラム「SBS（スモール・ビジネス・ソリューション）」。日本／香港間を週90便以上運航する香港のホームキャリアならではの強みを活かした、お得な航空券や宿泊ホテルの特別割引料金※はもちろん、フリークエントフライヤープログラム「ザ・マルコポーロクラブ」への無料入会など様々な特典が用意されている。申し込み完了後は24時間いつでも専用ウェブページで航空券の予約・購入をはじめとする各種手続きが可能となる。

便利なオンラインサービス「e-Journey」でスムーズな出張を

航空券の購入後はキャセイパシフィック航空が提供するオンラインサービス「e-Journey」が快適な出張を約束してくれる。フライト出発の48時間から90分前まで可能なオンライン・チェックイン、もしくはモバイル・チェックインで、座席表を見ながら事前に座席指定を済ませる。さらに自宅やオフィスのプリンターでセルフプリント搭乗券を印刷しておけば、チェックイン手荷物がない場合は出発当日に空港で直接保安検査、そして搭乗ゲートへ進める。他にも特別食のリクエスト、予約便の最新状況や到着地の天候などを知らせる「notiFLYメッセージング」の登録など、すべてオンラインで手続きが可能。多忙なビジネストラベラーをサポートする利便性に優れた様々なサービスを提供している。

SBSプログラムへの申し込みはキャセイパシフィック航空ウェブサイトの「おすすめ情報」→「SBSプログラム」から24時間いつでも可能。

www.cathaypacific.co.jp

アジア・マイル

アジア・マイルはアジアを代表するトラベル特典プログラム。フライトはもちろんホテル宿泊やレストランでの食事のほか、オンラインショッピングでもマイルを貯めることができる。貯めたマイルは無料航空券や座席のアップグレードのほか400種類以上のライフスタイル特典との交換が可能。

詳しくは【www.asiamiles.com/jp】へ

ザ・マルコポーロクラブ

ザ・マルコポーロクラブはキャセイパシフィック航空を頻繁に利用するお客様へ様々な特典を提供する特別なプログラム。機上や地上を問わずお客様に最上の旅を提供するため、専用カウンターでのチェックインや優先搭乗をはじめとする各種特典やサービスを取り揃えている。

ザ・マルコポーロクラブには、アジア・マイルの機能が付いています。

詳しくはキャセイパシフィック航空ウェブサイト「マイレージプログラム」へ

※キャセイホリデージャパンが提供する特別割引料金となります。